

株式会社アイチケン

機械加工と手仕上げ加工に工程を分け、 伝統技能習得と生産効率向上を実現

宮大工の技術を若手に



若手の宮大工が活躍する

建築に携わる宮大工が19人在籍しており、その多くが20代、30代の若手。宮大工の吉田圭佑氏は「技術にはこだわるが、アットホーム」と職場の雰囲気語る。建設業界では若者離れが深刻な問題となっているが、同社では熟練者から若手にバトンが上手く引き継がれている。

センターランドグループは左官工事を祖業に建設、社寺・仏閣用材木や木製建具販売などを手がける5社で構成する。アイチケンは同グループの1社で総合建設会社。主力は社寺事業で、匠の技術を生かした精緻なモノづくりで、寺院や神社の新築・改修工事、文化財の保存・修理を行う。

木と木を継ぐ、「継手」や「仕口」といった伝統構法を駆使しながら、鑿（のみ）や鉋（かんな）を使い、社寺建築独特の曲線が美しい屋根の「反り」を仕上げる。名古屋城本丸御殿や小田原城馬出門の復元工事などにも携わった。

同社には「木造建築の最高峰」と称される社寺

技法習得と工期短縮を実現

現在はパソコンを使い、CADで設計図面も書くが、仕事の起点はあくまで手仕事。同社では実寸大で屋根の反りをベニヤに手書きする「原寸」などの伝統技法の伝承にも力を入れている。吉田氏は「原寸から型を取り、木に墨付けをする。全ての基となる作業」と、その重要性を語る。

若手宮大工の伝統技法習得に力を入れる一方、工期対応能力を高めるため、機械化を進めている。近年は施主の要望もあり、工期が短くなる傾向にあるためだ。

機械化に着手したのは10年程前。手始めに入れた中古のかんな盤は、社寺向けの幅が広い木材にはほとんど対応できなかった。その上、各種設定が手動調整のため、使いこなすのにも時間がかかったという。社寺建築に合う機械を探す中で、幅600mm×高さ400mmの木材を削れる自動送りかんな盤の存在を知った。



鑿（のみ）で仕口を仕上げる

加工日数を2日に短縮

そこで「平成27年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」を活用。同機を導入して木材加工の生産性向上に本格的に取り組んだ。同機はタッチパネル操作で0.1mm単位の設定ができ、加工精度も優れる。例えば、屋根を構成する部材「破風」を全て手加工で仕上げると1週間程度かかるものが、荒加工に同機を使うと2日間に短縮できる。

吉田氏は「操作も簡単で入社したばかりの新人も扱えるので、他工程を勉強しながら戦力にもなる」と効果を実感する。柱の荒加工を同機で行い、その後、穴を掘り、かんなどで仕上げる使い方もする。

「現場施工前の下準備が早くなることで、工期自体も20%程度短縮できるイメージ」（吉田氏）。

平成29年度補正ものづくり補助金も得て、柱にドリルで「ほぞ穴」を空ける機械も入れた。かんな仕上げに近い「超仕上げ」ができる木材加工機なども取り入れながら、機械と手仕事の最適なバランスを目指す。「小物は機械で加工し、丸柱などは技術力の差が顕著に表れるので、手仕上げを日々鍛錬する」（同）。



自動送り鉋(かん)盤を操作

業界支える後継者育成

生産調達部の西塚友昭取締役部長は若者の良さを「手仕事を継承しつつ、パソコンを使いこなせるので、最新工法も積極的に取り入れられる」と語る。同社では令和4年に新工場を稼働させる。「機械化を進めて女性も働きやすい職場環境を目指す」（西塚取締役）考えた。

新工場稼働を機に大工職人として独立を目指す若者に、自社導入機械を開放することを計画。吉田氏ら宮大工が技術的な指導も行う。左官職人だった同社創業者の中島正雄会長の発案だ。「修行の場を提供することで職人を志す人が増えてほしい」（同）と思いを込める。

政府による観光立国推進で、文化財や社寺の保護が注目されており、今後も改修や復元工事の需要増加が見込まれている。自社の職人と設備を通じた技能伝承で、業界を支える後継者育成につなげていきたい考えた。



本社外観

企業データ

企業名	株式会社アイチケン(あいちけん)
代表者役職名・氏名	代表取締役 岩尾健一
設立年月日	昭和57年11月26日
住 所	〒483-8104 愛知県江南市力長町大当寺128番地
電 話	0587-55-1000
FAX	0587-55-9988
URL	https://aichiken-jsk.com/housing/
E-Mail	nishizuka@centerland.co.jp
資本金	4000万円
業 種	寺院・神社の新築・改修工事、文化財の保存・修理、住宅・店舗・工場の新築・リフォームなど
従業員数	51人



生産調達部 西塚友昭取締役部長